

公開実用 昭和61- 91986

⑯ 日本国特許庁(JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-91986

⑮ Int. Cl.⁴

E 06 B 3/58

識別記号

庁内整理番号

8405-2E

⑬ 公開 昭和61年(1986)6月14日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 玄関扉

⑲ 実 願 昭59-178315

⑳ 出 願 昭59(1984)11月24日

㉑ 考 案 者	上 岡	光 男	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
㉒ 考 案 者	中 島	泰 博	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
㉓ 出 願 人	松 下 電 工 株 式 会 社		門真市大字門真1048番地	
㉔ 代 理 人	弁 理 士	石 田 長 七		

明細書

1. 考案の名称

玄関扉

2. 実用新案登録請求の範囲

[1] ガラスの端部に被嵌した断面コ字状のガラス固定縁と扉框との間の屋外側にガラス固定縁と扉框に亘るように表鋳物板を配置し、表鋳物板の内面に突設した第1取り付けボスを扉框の厚さ方向の中央より突設した取り付け片に取り付けねじにて取着し、表鋳物板の内面に突設した第2取り付けボスに、ガラス固定縁より扉框側に連出した固定片を当接すると共に頭部にボス部を有する取り付けボルトにて固定片を第2取り付けボスに固着し、ガラス固定縁と扉框との間の屋内側にガラス固定縁と扉框に亘るように裏鋳物板を配置し、裏鋳物板を固定ねじにて取り付けボルトのボス部に固定した玄関扉において、固定片の扉框側の端部に表鋳物板側に突出するフィンを設けて成る玄関扉。

3. 考案の詳細な説明

〔技術分野〕

本考案は玄関に取り付ける玄関扉において屋外側から水が浸入しないようにする技術に関するものである。

〔背景技術〕

従来の玄関扉は第3図に示すようにガラス1の端部に被嵌した断面コ字状のガラス固定縁2と扉框3との間の屋外側にガラス固定縁2と扉框3に亘るように表鋳物板4を配置し、表鋳物板4の内面に突設した第1取り付けボス5を扉框3の厚さ方向の中央より突設した取り付け片6に取り付けねじ7にて取着し、表鋳物板4の内面に突設した第2取り付けボス8に、ガラス固定縁2より扉框3側に連出した固定片9を当接すると共に頭部にボス部10を有する取り付けボルト11にて固定片9を第2取り付けボス8に固着し、ガラス固定縁2と扉框3との間の屋内側にガラス固定縁2と扉框3に亘るように裏鋳物板12を配置し、裏鋳物板12を固定ねじ13にて取り付けボルト11

のボス部 10 に固定して形成され、表鋳物板 4 とガラス固定縁 2 との間及びガラス固定縁 2 とガラス 1 の屋外面との間に先付けで断面コ字状の第 1 ビード 14 が取り付けられ、ガラス固定縁 2 とガラス 1 の屋内面との間の後付けで第 2 ビード 15 が取り付けられている。かかる従来例にあっては第 1 ビード 14 にてガラス固定縁 2 と表鋳物板 4 との間から屋外の水が浸入しないようになっているが、ここから浸入すると固定片 9 に沿って屋内側に容易に水が回って浸入するという欠点があった。

〔考案の目的〕

本考案は叙述の点に鑑みてなされたものであって、本考案の目的とするところは固定片の扉框側の端部から連出したフィンにて屋内側に水が回るのを防止できる玄関扉を提供するにある。

〔考案の開示〕

本考案玄関扉は、ガラス 1 の端部に被嵌した断面コ字状のガラス固定縁 2 と扉框 3 との間の屋外側にガラス固定縁 2 と扉框 3 に亘るように表鋳物

板 4 を配置し、表鋳物板 4 の内面に突設した第 1 取り付けボス 5 を扉框 3 の厚さ方向の中央より突設した取り付け片 6 に取り付けねじ 7 にて取着し、表鋳物板 4 の内面に突設した第 2 取り付けボス 8 に、ガラス固定縁 2 より扉框 3 側に連出した固定片 9 を当接すると共に頭部にボス部 10 を有する取り付けボルト 11 にて固定片 9 を第 2 取り付けボス 8 に固着し、ガラス固定縁 2 と扉框 3 との間の屋内側にガラス固定縁 2 と扉框 3 に亘るように裏鋳物板 12 を配置し、裏鋳物板 12 を固定ねじ 13 にて取り付けボルト 11 のボス部 10 に固定した玄関扉において、固定片 9 の扉框 3 側の端部に表鋳物板 4 側に突出するフィン 16 を設けたものであって、上述のように構成することにより従来例の欠点を解決したものである。つまり固定片 9 の扉框 3 側の端部に表鋳物板 4 側に突出するフィン 16 を設けたことにより固定片 9 の表側に水が浸入してきてもフィン 16 にて屋内側に水が浸入するのを阻止できるようになったものである。

以下本考案を実施例により詳述する。

扉框 3 は上框と下框と縦框とにより枠組みして形成されている。かかる扉框 3 はアルミニウムの押出成形品である。扉框 3 の内周の厚さ方向の中央から取り付け片 6 を突設してある。第 2 図に示すような断面コ字状のガラス固定縁 2 は扉框 3 の内周に沿って配置され、ガラス固定縁 2 の扉框 3 より固定片 9 を連出してあり、固定片 9 の先端より屋外側に向けて突出するフィン 16 を突設してある。ガラス固定縁 2 の屋外側の片には先付けで断面コ字状の第 1 ビード 14 を被嵌してある。表鋳物板 4 は鋳造で形成され、ガラス固定縁 2 と扉框 3 との間の屋外側にガラス固定縁 2 と扉框 3 とに亘るように配置され、表鋳物板 4 の内周端を第 1 ビード 14 に当接し、表鋳物板 4 の外周端を扉框 3 の屋外面に当接してある。表鋳物板 4 の扉框 3 側の内面には第 1 取り付けボス 5 を突設してあり、取り付け片 6 から第 1 取り付けボス 5 に取り付けねじ 7 を螺入して表鋳物板 4 を扉框 3 に取着してある。表鋳物板 4 のガラス固定縁 2 側の内面より第 2 取り付けボス 8 を突設してあり、頭部に

ボス部10を有する取り付けボルト11を固定片9から第2取り付けボス8に螺入して表鋳物板4にガラス固定縁2を固定してある。裏鋳物板12は鋳造で形成され、ガラス固定縁2と扉框3との間の屋内側にガラス固定縁2と扉框3とに亘るように配置され、裏鋳物板12の内周端をガラス固定縁2の屋内面に当接し、裏鋳物板12の外周端を扉框3の屋内面に当接してある。裏鋳物板12の外面から皿ねじのような固定ねじ13を取り付けボルト11のボス部10に螺合して裏鋳物板12を固定してある。ガラス1は周縁をガラス固定縁2にはめ込んで取り付けられ、ガラス1の屋内側の面とガラス固定縁2との間に後付けで第2ビード15がはめ込まれる。このようにして第1図に示すような玄関扉が形成され、第1ビード14とガラス固定縁2との間から表鋳物板4の裏側に水が浸入してもフィン16にてそれ以上裏側へ浸入するのが阻止される。

[考案の効果]

本考案は叙述のように固定片の扉框側の端部に

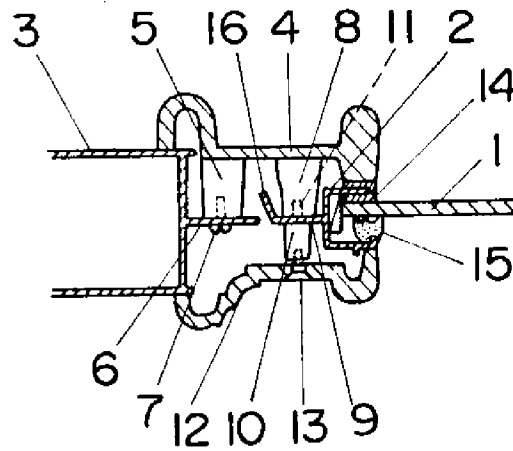
表鋳物板側に突出するフィンを設けてあるので、表鋳物板とガラス固定縁との間からたとえ水が浸入してもフィンにてそれ以上水が浸入するのが阻止され、屋内側に水が回るのを確実に防止できるものである。

4. 図面の簡単な説明

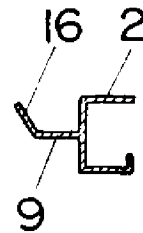
第1図は本考案の一実施例の断面図、第2図は同上のガラス固定縁の断面図、第3図は従来例の断面図であって、1はガラス、2はガラス固定縁、3は扉框、4は表鋳物板、5は第1取り付けボス、6は取り付け片、7は取り付けねじ、8は第2取り付けボス、9は固定片、10はボス部、11は取り付けボルト、12は裏鋳物板、13は固定ねじ、16はフィンである。

代理人 弁理士 石 田 長 七

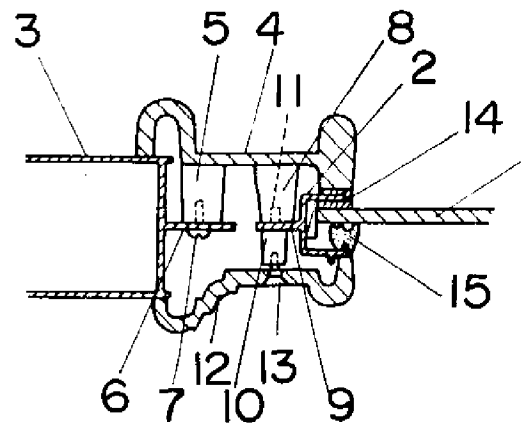
第 1 図



第 2 図



第 3 図



876